

自己点検・評価について

① プログラムの自己点検・評価を行う体制(委員会・組織等)

数理・データサイエンス・AI教育推進機構	
(責任者名)	下村 輝夫
(役職名)	学長

② 自己点検・評価体制における意見等

自己点検・評価の視点	自己点検・評価体制における意見・結果・改善に向けた取組等
学内からの視点	
プログラムの履修・修得状況	本教育プログラム開設の初年度(令和4年度)における履修状況は、リテラシーレベルは48%(令和4年度入学生に限定すると85%)、応用基礎レベルは2%(令和4年度入学生に限定すると3%)であり、リテラシーレベルの履修率は当初の見込みよりも高かった。その要因として、新入生オリエンテーションや在学生オリエンテーション等において、数理・データサイエンス・AIに関する社会的ニーズと情報系短大である本学の特色について学生に説明したことが影響しているものと推察される。応用基礎レベルについては、今後、2年次科目の履修や1年次科目の再履修によって履修率は向上することが期待される。また、修得状況については、令和4年度末においてリテラシーレベルは38%(履修者数に対する割合は78%)、応用基礎レベルは1%(履修者数に対する割合は40%)であった。以上の点から、本教育プログラムの履修・修得状況は概ね良好な水準にあると評価している。
学修成果	本学教育推進委員会が実施している学生授業評価アンケートにより、本教育プログラムの科目に関する学生の理解度および満足度を把握することができる。また同アンケートでは、授業評価に関する自由記述欄を設けており、教員が開発した教材や授業方法等に対する評価を把握できる。同委員会では、入学時における数学・情報のプレースメントテストの実施、GPA分布の分析や講義PDCAのレビュー等を行っている。それぞれの結果については、学科会議や教授会において報告しており、本教育プログラムの評価や改善に活用している。
学生アンケート等を通じた学生の内容の理解度	本学の教育推進委員会が実施している学生授業評価アンケートにより、本教育プログラムの科目に関する学生の理解度および満足度を把握している。いずれの指標も4件法による評価(1点:「低い」～4点:「高い」)を行っており、本学のFD目標として2.5点以上を設定している。令和4年度においては、本プログラムを構成するほぼ全ての科目が理解度・満足度ともに目標値を達成した。以上のことから、内容の理解度は良好であると評価している。
学生アンケート等を通じた後輩等他の学生への推奨度	学生授業評価アンケートに付随して、シラバス上に後輩学生に対する履修上のアドバイスを学生が記入できる機会を設けている。本教育プログラムの科目群に対するコメント内容には、「面白いのでも是非履修をしてください」、「予習・復習を欠かせないこと」、「実践的な力が身につきます」などが多く占めており、学生への推奨度は良好であると評価できる。
全学的な履修者数、履修率向上に向けた計画の達成・進捗状況	本教育プログラムの履修者数の向上に向けては、科目の必修化やオリエンテーション等での説明のみならず、先輩学生からの勧めを促すことや、モデルとなる学生を一人でも多く社会に輩出することが必要である。そのため現在、本教育プログラムを履修している学生を「実践型インターンシップ」を代表とする各種就業実習プログラムに派遣し、本プログラムで得た知識やスキルを具体的に活用できる機会を積極的に設けている。
教育プログラム修了者の進路、活躍状況、企業等の評価	本教育プログラムを修了し卒業した学生はまだいないが、今後、修了生が出た後には、本学が毎年実施している「卒業生アンケート」、「卒業生在籍企業アンケート調査」および「企業との教育課程に関する意見交換会」の開催により意見聴取を行い、その結果をもとに定期的に点検・評価を行うことを計画している。
産業界からの視点を含めた教育プログラム内容・手法等への意見	本教育プログラムの内容や方法等が地域・社会の要請に答えているかについては、「企業との教育課程に関する意見交換会」の実施により意見聴取を行っており、その結果をもとに定期的に点検し、必要に応じて改善を行うよう努力している。令和4年度の開催においては、本教育プログラムを含む本学の教育課程に対して概ね良好な評価をいただいております。本プログラムの推進に向けた体制は整っているといえる。
数理・データサイエンス・AIを「学ぶ楽しさ」「学ぶことの意義」を理解させること	本教育プログラムを構成する「データサイエンス基礎」や「人工知能基礎」をはじめとする科目において、演習課題を豊富に取り入れており、受講生には、数理・データサイエンス・AIを学ぶ楽しさや意義について可能な限り体験的に理解してもらえよう努めている。1年生の夏季休暇中には「実践型インターンシップ」を実施しており、提携している企業・地域における実課題に沿った学修や活動を行う機会を設けている。また、2年生の卒業研究では、数理・データサイエンス・AIの各分野に関する研究が行われているが、その発表の場においては、1年生も任意に参加できるようにしており、本教育プログラムを学ぶ楽しさや意義について理解を促す機会を設けている。
内容・水準を維持・向上しつつ、より「分かりやすい」授業とすること	本教育プログラムの内容については、学生委員(学生会メンバー)をはじめとして、企業の方や卒業生にも定期的にアンケート調査やヒアリングを実施しており、その結果を踏まえて本プログラムの教育内容の水準の維持・向上に役立っている。より分かりやすい授業を展開していくために、本学教育推進委員会が中心となって、FD研修会の実施や教育系の学会への参加・発表を行っており、教育方法の開発・改善に努めている。各学期末に行われる学生授業評価アンケートでは、本学の教育内容や方法に対しては概ね肯定的な評価をいただいております。本教育プログラムにおける教育の質の維持・向上の状況は良好と判断される。